

静岡県民俗学会会報 193号

<http://web.thn.jp/s-folklore>

2024年11月1日発行

静岡県民俗学会 〒424-0053

静岡市清水区渋川1-9-6-101

✉ S-folklore@fuji.tnc.ne.jp

振替口座：00850-5-10438

～あれから33年～井川探訪

多々良 典秀

1 豊かな生活文化を継承する井川へ

静岡県民俗学会はまもなく発足以来50年を迎える。これまで学会員が公私で積み上げてきた調査研究の成果は膨大なもので、なかでも静岡県史編さん事業で編まれた計20集の民俗調査報告書は、今も色あせることのない大きな成果である。

本会では、これまでの調査研究の成果を振り返り、これからの民俗研究の歩む道と、これまでの調査研究の成果を未来の地域発展にどう活かしていくかを50年の節目に考えてみることにした。そのため、まずは過去に民俗誌の調査地として取り上げられてきたいくつかの地域を訪ねてみようと考えた。その第1弾が静岡市葵区井川である。

静岡県史編さん事業により『田代・小河内の民俗—静岡市井川—』が刊行されたのは、平成3年3月だった。今から33年前に遡る。井川地区は急激に過疎化が進み、発刊当時1000人以上あった人口が、現在300人台にまで減少している。しかし、そうした状況下にあっても県史編さんの調査で注目された民俗事象のいくつかは、今も大切に継承されている。さらに、ここ数年は受け継がれてきた民俗を地域振興に活かすべく、焼畑の復活や在来作物を使った商品開発などが試みられている。また奥山へのウイスキー蒸留所建設や井川小学校旧校舎を再利用して南アルプスをテーマにしたミュージアムの開設準備工事もはじまった。

今回の旅では、過疎化が進む一方で、未来に向けての挑戦が始まっている井川の今を会員が目を確認してみようと、以下のルートを設定し、探訪してみることにした。



井川本村(手前はダム湖)



西山平の雑穀畑

2 まずは井川本村を巡ってみよう

井川ダムと井川湖渡船 静岡市街地から富士見峠を越え、井川地区にたどり着くと、まず眼前に現れるのは井川ダムである。完成は昭和32年(1957)。島和合などいくつかの集落が湖底に沈み、当時193戸が移転するなど、井川の人々の暮らしを一変させた。

ダム建設によってできた井川湖には渡船が就航し、無料の遊覧船も運航しているので、湖上から四季折々の井川の自然を楽しむことができる。この渡船は、井川ダムの完成で湖底に沈んだ吊り橋の代わりに、対岸交通の手段として運航が開始されたものである。